

# 巻頭言

会長 浅田 里美

言語聴覚士の国家試験の時期になりました。今年の実習生はどうかなと少し心配になります。親の気持ちに近いものがあるのでしょうか・・・次々に新しい言語聴覚士が社会に出てくるのを皆さんは楽しみですか？それとも？

先日、高校生の娘が漢文が苦手だとぼやいているのを聞いて、論語（高校生が感動した「論語」佐久協 祥伝社）を久しぶりに読んでみました。孔子は中国の思想家で最初は政治家でしたが、政治革命に失敗し、晩年は3000人（本当でしょうか？）の弟子を教育したと言われています。論語は孔子や弟子の言行録です。論語には人生のヒントとなるような言葉が満載ですが、今回面白かったのは、孔子はかなり教育熱心な人で、弟子に思わず怒鳴ってしまったり、そうではないと気を取り直して反省したり四苦八苦していたところでした。四科十哲といわれる優秀な弟子の中に「宰我」という人がいます。目を離すと昼ねをしているような人で孔子はてこずります。「腐った木には彫刻はできん。腐った土壁は修復不能だ。お前なんか叱るだけ無駄だ」とまで言いますが、最後は、自分のやり方を反省し、「できの悪い生徒は教育者にとっては良い生徒かもね。」と締めくくっています。そして、彼が大好きだったできの良い弟子「顔回」には、先立たれ悲しい思いもしています。孔子は教育者として、言葉だけではだめなんだ、行動まで踏み込むことが必要なんだと常に説いています。そして、弟子たちからの同じ質問に、それぞれの個性を配慮し、まったく違う答え方をしています。皆さんの後輩育成にも似たところがあるのではないのでしょうか？

孔子の弟子の足りないところをうまく育て、自分もそこから学ぶ姿勢だけはまねしてみたいと思っています。

最後に懐かしい一説を

子曰く、学びて時にこれを習う、亦た説よろこばしからずや。

朋とも、遠方より来たるあり、亦た楽しからずや。

人知らずしていきどお慚いらず、亦た君子ならずや。

（大いに学び、学んだことはしまいこまずに実践すると気分がいいぞ。考えの遠く隔たった者とも語り合い、友達づきあいができるようになると楽しいぞ。周りが自分を認めてくれないからってクサるなよ。オンリーワンとなるよう精進しようや。

佐久協解釈によるもの)